

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2017.7.31 時点)

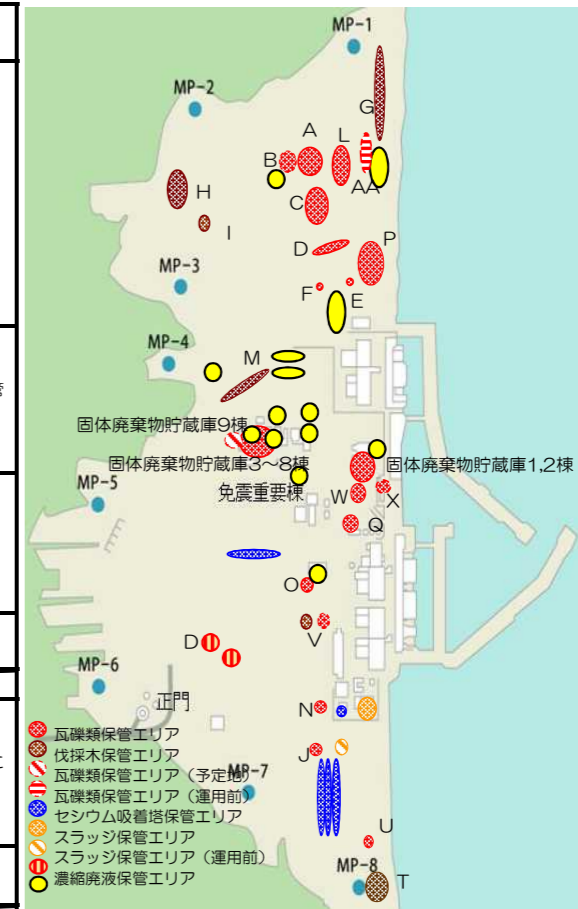
分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回報告比 (2017.7.27)	変動理由	エリア 占有率	保管量 ^{※3} / 保管容量 (割合)	トピックス
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01未満	2,800 m ³	0 m ³	—	85%	153500 / 214300 (72%) ・フランジタンク解体片 エリアP1にて一時保管中。(2015年6月15日~) 2017年7月末時点で438基(コンテナ)保管。
		C	屋外集積	0.01未満	57,000 m ³	+900 m ³	①②③	90%	
		F2	屋外集積	0.01未満	6,400 m ³	0 m ³	—	85%	
		J	屋外集積	0.01	4,300 m ³	0 m ³	—	53%	
		N	屋外集積	0.01未満	4,500 m ³	0 m ³	—	45%	
		O	屋外集積	0.01未満	32,800 m ³	0 m ³	—	64%	
		P1	屋外集積	0.01	44,000 m ³	+900 m ³	①	69%	
	U	屋外集積	0.01未満	0 m ³	0 m ³	—	0%		
	V	屋外集積	0.01	1,800 m ³	0 m ³	—	30%		
	シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600 m ³	0 m ³	—	58%	27500 / 71000 (39%) ・エリアWは、車両解体(プレス等)及びエリア内配置整理により保管 量減。
		E1	シート養生	0.03	12,900 m ³	-100 m ³	①④	81%	
		P2	シート養生	0.01	5,500 m ³	0 m ³	—	62%	
		W	シート養生	0.05	4,300 m ³	-1,500 m ³	②	15%	
覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m ³	0 m ³	—	100%	21400 / 27700 (77%) ・主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。	
	A	仮設保管設備	0.25	2,700 m ³	+100 m ³	⑥	38%		
	E2	容器 ^{※4}	0.02	300 m ³	0 m ³	—	19%		
	F1	容器	0.01未満	600 m ³	0 m ³	—	99%		
Q	容器	0.09	5,700 m ³	0 m ³	—	93%			
固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物 貯蔵庫	容器 ^{※4}	0.02	8,800 m ³	+100 m ³	③⑦	73%	・主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。	
合計(ガレキ)				211,100 m ³	+600 m ³	—	65%		
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,100 m ³	+2,400 m ³	⑧	63%	96300 / 144500 (67%) ・エリアGは、敷地造成工事関連で発生した伐採木(幹・根)の受入に より保管量増。
		I	屋外集積	-	0 m ³	0 m ³	—	0%	
		H	屋外集積	0.01未満	31,700 m ³	0 m ³	—	74%	
		M	屋外集積	0.01未満	39,500 m ³	0 m ³	—	88%	
	V	屋外集積	0.01	0 m ³	微増 m ³	—	0%		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	13,000 m ³	0 m ³	—	44%	24100 / 41600 (58%)
T		伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m ³	0 m ³	—	94%		
合計(伐採木)				120,400 m ³	+2,400 m ³	—	65%		
保護衣	屋外集積	容器	0.04	66,400 m ³	-900 m ³	⑨⑩	93%	66400 / 71200 (93%) ・使用済保護衣等焼却量 1922t(2017年7月末累積) ・焼却灰のドラム缶数 304本(2017年7月末累積)	
	合計(使用済保護衣等)				66,400 m ³	-900 m ³	—	93%	
仮設	瓦礫類	U(仮設分)	屋外集積	0.01未満	700 m ³	0 m ³	—	—	・タンク設置スペース確保に伴い、エリアUより持込み。
	合計(仮設運用エリア)				700 m ³	0 m ³	—	—	

※1 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。
 ※2 主な変動理由：①タンク関連設置工事 ②車両解体工事 ③1~4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ④瓦礫を一時保管エリアXに移動 ⑤一時保管エリアE1から瓦礫の受入
 ⑥フェーシング工事 ⑦水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)の保管 ⑧敷地造成関連工事 ⑨焼却運転 ⑩使用済保護衣等の受入

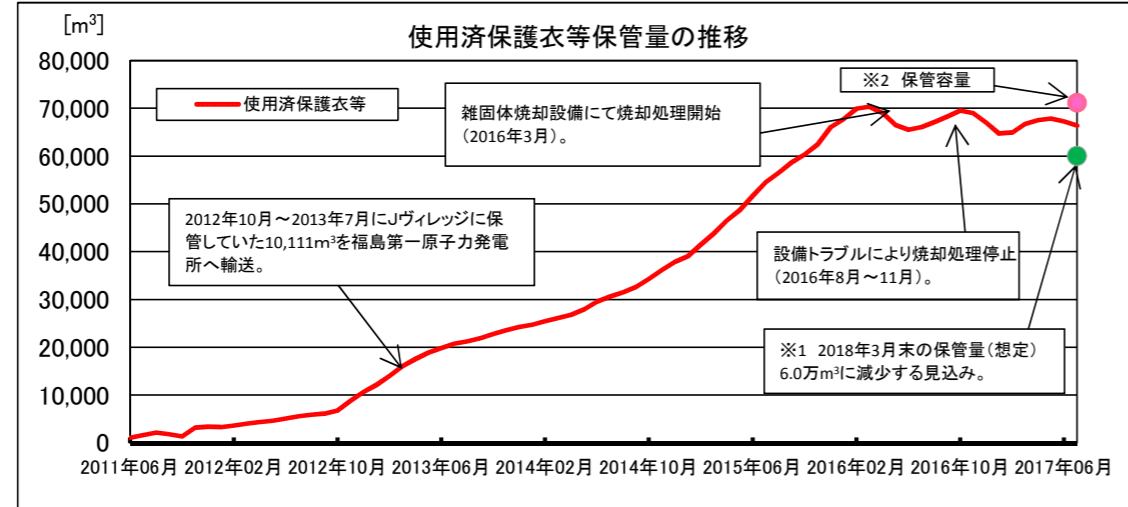
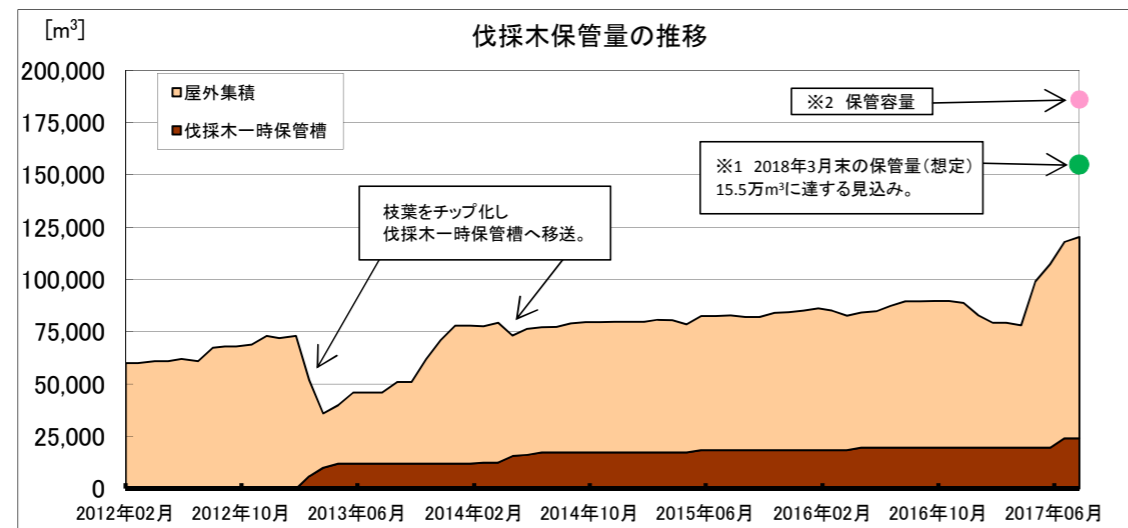
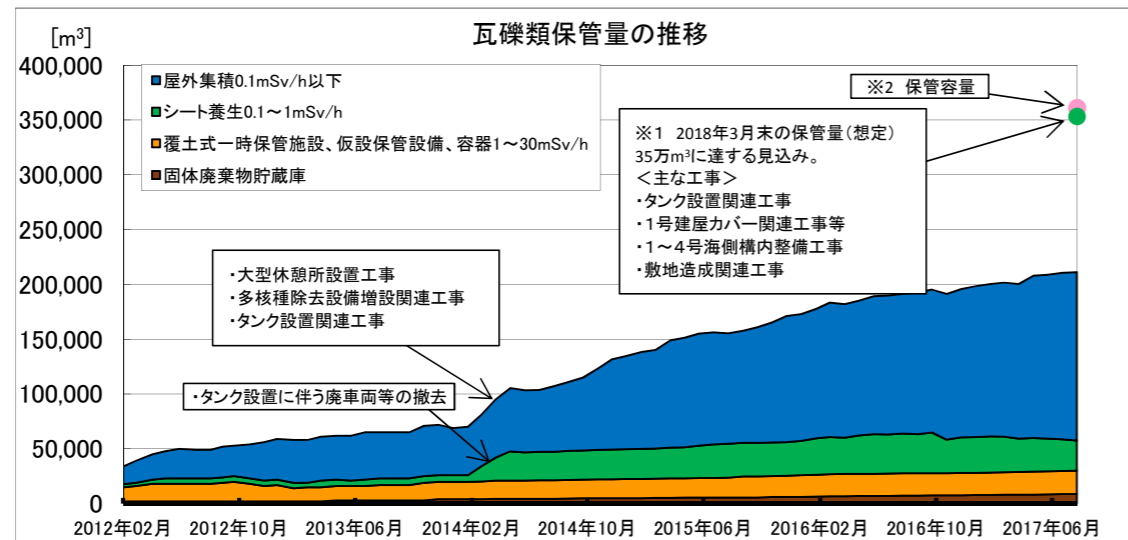
※3 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2017.8.24時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2017.7.27)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス
水処理 二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済バケツ	758 本	0 本	3748 / 6368 (59%) ・吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) ・使用前検査完了(2017年5月26日)に伴う保管容量増(第四施設架台129塔分)	
		第二セシウム吸着装置使用済バケツ	190 本	0 本		
		多核種除去設備等保管容器	1,423 基	+17 基		
		高性能多核種除去設備使用済バケツ	73 本	0 本		
		多核種除去設備処理カラム	9 塔	0 塔		
		モバイル式処理装置等使用済バケツ及びフィルタ類	193 本	+1 本		
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%) ・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。		
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,398 m ³	+8 m ³	9398 / 10700 (88%) ・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場バトロール異常なし) ・水位計0%以上の保管量: 9298 [m] タンク底部~水位計の保管量(DS): 約100[m]		



瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2017.7.31 時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2017年3月1日認可)の予測値を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、実施計画(2017年3月1日認可)の保管容量の運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物の管理状況(2017.8.24時点)

